

葛飾ビラ弾圧 (花巻支部主催) 荒川庸生さんが講演!

「一〇六人を越える大盛況で、参加者に確信を与える」

国民救援会花巻支部は、六月十五日、花巻市で葛飾ビラ配布弾圧事件の荒川庸生さんを迎えて、「守ろう! ビラ配布の自由、受け取る自由」の学習講演会を開催し、一〇〇人を大幅に超える参加者で講演会は熱気につつまれました。

北上からのマイクロボスをはじめ、盛岡、一関、金ケ崎など県内の各支部からも参加が見られ、荒川さんの講演は、参加者の憤激と共感を呼び、深い

感動を与えると同時に、たまたかう知識と勇気を与えてくれました。また会場では、荒川さんを支援するカンパが取り組まれ、集められた約七万円は、高橋支部長から荒川さんに差し上げられるなど、最高裁への署名や、『守る会』入会申込書の取り組みも行われるなど参加者とともに講演会の成功を確認し合いました。

なお、花巻支部は講演会後の六月十八日、支部常任委員会を開き、とりくみのまとめを行いました。



この時期、一週間おきに開かれた、県本部結成三十年の山田善二郎中央本部会長の記念講演と、葛飾ビラ弾圧・荒川庸生さんの講演は、いまの情勢と時宜に合った、岩手の救援運動の歴史とこれからのたたかひへの展望を指し示してくれているものと思われまふ。

この二つの講演会のとりにくみの教訓を土台にして、来るべき第五十四回全国大会の成功を確かなものにしていくために、会員拡大の岩手の目標・七七七名をやりとげることに求められています。講演会に参加されたみなさんを、はじめ、講演会成功のために協力いただいた全体的な心から感謝を申し上げ、更なるとりくみへの飛躍をめざしてゆかなければなりません。

大弾圧の嵐の中で開かれた創立大会! 日本国民救援会の歴史!

普通選挙法による第一回選挙が、一九二八年二月に行われた。無産政党は全国で八九人の候補者を立て、四八万六五〇二票を獲得し、労働党の山本宣治、水谷長三郎を八人が当選した。無産政党が進出し、なかでも総選挙をつうじて国民の前にその存在をあらわした日本共産党の前進を恐れた天皇制政府は、同年三月一五日、日本共産党に対して

全国いっせいの弾圧を加えた。解放運動犠牲者救援会の創立大会は、四月七日、東京芝・協調会館に六〇〇人が参加して盛大に開かれ、馬島氏を議長に選び、労働党、関東消費組合連盟などのメッセージや祝電が披露され、準備会が提案した①創立準備会報告②創立宣言③規約④野田醬油争議犠牲者と家族救援などすべての議事が承認された。

次の役員が選ばれた。
会長 安倍磯雄
評議員 市川房枝、江口渙、笠原千鶴、上村進、亀井貫一郎、河上丈太郎、河崎夏子、栗原礼二、小牧近江、佐々木孝丸、鈴木文治、高田保、西尾末広、細迫兼光、松谷与二郎、宮崎隆介、水谷長三郎、三輪寿壮、山本宣治ほか。
書記 太田慶太郎
書記 石島治志
会計 石島治志
会計監査 山崎今朝弥、布施辰治
(つづく)

荒川講演会に寄せられた感想文を紹介いたします!

- 1、新聞では拝見しておりましたが、実際の荒川さんは想像よりずっと小柄で物静かで、でも闘志には心から敬意を表します。ビラ配布は個人の問題ではありません。誰にでも起こり得ることです。少しでも迷うことがあれば権力の思いつぼです。何としても勝利させたいと思います。
- 2、荒川さんへの弾圧の詳細を聴くにつけ怒りで気持ちが高ぶりました。ビラを配ったぐらいで、大変なことが世の中にはあるもんだと驚きました。
- 3、今日の話聴いて、なんでもないことで、こういう裁判に発展していく恐ろしさを感じました。
- 4、お聞きすればするほど驚くことばかりでした。警察や検察のやり方も腹が立ちます。上層部ばかり見て判決を下す裁判官にも不信と憤りを感じます。
- 5、確信に満ちた荒川さん本人のお話を聴いて、とても勇気が持てました。荒川さんのたたかひを支援するということは、私たちにとても誇りです。
- 6、検察が事件をでっち上げていく過程が目につかぶようで、とても腹立たしく思いました。
- 7、正義感に燃えた一連の姿勢に感心しました。大変な経験がされたと思います。ひたすら無罪を祈ります。
- 8、堂々とした闘いをしていく様子を淡々と語ってもらいました。必ず無罪を勝ち取り、権利を守り拡大しましょう。
- 9、荒川さんの講演で、最高裁で勝利するための闘いの決意が固まりました。